

## 2022 年度第 6 回価格審査会の開催について

2022 年度第 6 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2022 年 9 月 13 日(火)～15 日 (木)
場 所	新型コロナウイルスへの感染防止策が必要とされていることから、上記期間中のメール会議とした
委 員	田中 弘 日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 シニアエンジニア 鈴木 由香 株式会社日本設計 コスト設計部長 竹本 康之 東日本建設業保証株式会社 業務部 業務サービス課長 辻 保人 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長 早川 和利 東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括)
当 会	共通資材調査部 部長：大澤 勝、次長：小林 法雅 建築調査部 部長：高橋 俊一、次長：島田 理久 監査審査室 室長：今井 豊 調査統括部(事務局) 部長：柴尾 治、課長：本間 哲

2022 年度第 5 回価格審査会議事録(案) 確認

2022 年度第 6 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1. 「建設物価」10月号、「Web 建設物価」10月号	
「土木コスト情報」秋号、「建築コスト情報」秋号	
・価格が上伸した資材（工事費）	
【Web 建設物価】	
月積み契約分鉄鋼販売価格 形鋼、鋼矢板、鋼管ぐい、鋼管、鋼板・平鋼(全都市)、H形鋼(札幌市ほか 24 都市)、鋼板(札幌市ほか 5 都市)、セメント(山形市ほか 4 都市)、レディーミクストコンクリート(函館市ほか 94 都市)、再生砕石類(釧路市ほか 12 都市)、アスファルト混合物(宮古市ほか 61 都市)、燃料油(全都市)、鉄スクラップ(全都市)など	
【土木コスト情報】	
<市場単価>鉄筋工(北海道ほか 25 都府県)、ガス圧接工(茨城県ほか 30 都府県)、インターロッキングブロック工事(北海道ほか 13 都府県)、防護柵設置工(全都道府県)、道路標識設置工(全都道府県)、法面工(全都道府県)、吹付枠工(全都道府県)、鉄筋挿入工(全都道府県)、道路植栽工(全都道府県)、組立マンホール設置工(全都道府県)など	
<土木工事標準単価>構造物とりこわし工(茨城県ほか 13 都府県)、コンクリートブロック積工(茨城県ほか 13 都府県)、表面含浸工(茨城県ほか 13 都府県)、連続繊維シート補強工(茨城県ほか 13 都府県)、バキュームブラスト工(茨城県ほか 13 都府県)、FRP 製格子状パネル設置工(北海道ほか 46 都府県)など	

【建築コスト情報】

<市場単価>鉄筋工事(全都市)、型枠工事(全都市)、アスファルト防水工事(全都市)、左官工事(全都市)、内装ボード工事(全都市)、保温工事(全都市)、ダクト工事(全都市)など

<標準施工単価>防水工事(全都市)、タイル工事(全都市)、左官工事(全都市)、吹付工事(全都市)、内装工事(全都市)、構内舗装工事(広島市を除く全都市)、配管工事(全都市)、配管工事(全都市)、保温工事(全都市)、設備塗装工事(全都市)、ダクト設備工事(全都市)など

- ・価格が下落した資材（工事費）

【Web 建設物価】

異形棒鋼(青森市ほか 47 都市)、ねじ節鉄筋(青森市ほか 29 都市)、一般建築用木材(全都市)、ストリートアスファルト(那覇市)、非鉄スクラップ(九州地区)など

【土木コスト情報】

<市場単価>防護柵設置工(ガードパイプ)(東北地区)

<土木工事標準単価>橋梁塗装工(北海道ほか 17 県)、構造物とりこわし工(北海道ほか 17 県)、コンクリートブロック積工(北海道ほか 17 県)、表面被覆工(コンクリート保護塗装)(北海道ほか 17 県)、表面含浸工(北海道ほか 17 県)、連続繊維シート補強工(北海道ほか 17 県)、バキュームブラスト工(北海道ほか 17 県)、道路反射鏡設置工(北海道ほか 17 県)など

【建築コスト情報】

<市場単価>土工事(乗入構台)(札幌市ほか 5 都市)、防水工事(全都市)

2. 比較資料

- ・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	土木の鉄筋工や建築の鉄筋工事の市場単価が上伸している。上伸理由の一つに外国人労働者の減少による労働力不足をあげているが、外国人労働者減少の大きな理由は、コロナ禍に伴う入国制限等の影響によるものか。あるいは、最近の急激な円安のために外国人労働者が集まらないためか。または、それらよりも、現状手持ち工事量が高水準で推移しているという状況の方が値上がりの決定的な理由か。	都心部の再開発などの需要が堅調で、専門工事業者の稼働率が高まり、労働力不足が顕著になったことが値上がりの主要因である。外国人労働者の減少は労働力不足の一つの要因である。外国人労働者減少の主な理由はコロナ禍に伴う入国制限等の影響によるもので、円安による影響が出るのはこれからと推測される。
質問 2	先月号・今月号ともに、上伸帯数が 250 帯前後と、数多くの資材単価で上伸現象が見られる。こうしたなか、これまでの経時的推移を概観してみて、最近の上伸に見られる特徴として、上伸変動幅が大きい(=最大変動率が大きい)資材が多数見受けられる傾向にあると言えるのか。	最近の特徴として上伸変動幅が大きい傾向にあるといえる。要因としては、各種製品の原材料価格の変動幅がかつてなく大きいことから、各種製品の価格変動幅も大きくなっている。

質問 3	<p>コンクリート型枠用合板(輸入品)が 19 カ月連続で続伸していたが、前月比変わらずの横ばいとなった。原材料供給元の現地が今後雨季に入り供給量が減る時期に向かうにもかかわらず、先行き予想は横ばいの公算が大きいとしている。このことは、これから年末・年始に向かうこの期間の国内市場では、大きな RC 構造物の工事需要が見込めないということか。</p>	<p>材料手当が済んだ需要家は模様眺めの様相が強く、価格は踊り場局面となっている。需要は現時点では一服感がみられるが、首都圏では大型物件が控えており、工事需要に陰りはない。今後の動向に注目している。</p>
質問 4	<p>レディーミクストコンクリートは原材料価格や輸送コストが上昇し他地区で値上がりするなか、福島市で値下がりした理由はなにか。</p>	<p>福島市もほとんどの規格で値上がりしているが、配合の見直しに伴いごく一部の規格で下落となった。なお、代表規格(18-18-25)は上伸している。</p>
質問 5	<p>異形棒鋼の東京価格について「工事量が高水準で推移」とありコンクリート出荷量も増えている。異形棒鋼の需要は高いと思われるなか、鉄スクラップ価格も上昇している。目先弱気調と推測している理由はなにか。</p>	<p>鉄スクラップの東京価格は、10月号でヘビーH2がトン当たり7500円上伸となっているが、7月号から9月号で25,000円下落している。鉄スクラップと異形棒鋼の価格差が依然として大きく、これを要因とする需要家の値引き要求が強いことから、異形棒鋼を目先弱含みとしている。</p>
質問 6	<p>道路用コンクリート(松山市)、各種側溝(高知市・高松市)、地区別コンクリート製ます類(広島市)、鉄筋コンクリート台付管(鳥取市)、遠心力鉄筋コンクリート管(鳥取市)、RCボックスカルバート(熊本市)、コンクリート擁壁(高松市)など、最大変動率を記録した都市が西日本地域(中国、四国、九州の各地区)に多いが、何か特殊な事情があるのか。</p>	<p>地域性の強い資材なので3地区の特殊事情というよりも、各地区の需給状況、競合状況等を背景とした交渉結果によるものである。</p>
質問 7	<p>一般建築用木材の価格が下落となっており、その理由として「需要減少による販売店間の受注競争」とある。輸入木材による影響はあるのか。また、需要減少が主だった下落要因だった場合、今後の見通しはどうか。</p>	<p>供給の大半を占める輸入木材の供給は回復している。こうしたなか、住宅需要が減少したため市中に荷余り感が台頭している。需給環境が変化する見込みは薄く、先行き、なお弱基調の見込みである。</p>

質問 8	<p>一般建築用木材の価格は下落となっているが、コンクリート型枠用合板及び普通合板はそれぞれ高値を維持している。原材料は同じ木材にもかかわらずなぜこのような違いがでるのか。</p>	<p>一般建築用木材の原材料は針葉樹（国産および北米・欧州産）である。輸入材の供給量が回復したことにより、荷余り感が台頭している。一方、コンクリート型枠用合板、普通合板の原材料はラワン材（東南アジア産）である。現地の慢性的な原木不足、労働者不足により供給不足が解消されていない。現在、国内需要の一服感で需給ひっ迫感が和らいでいるものの、価格は高止まりしている。</p>
質問 9	<p>アスファルト混合物の最大変動率は150%と非常に高い。価格変動の具体的な対象は何か。</p>	<p>一部地区において、夜間割増し価格がトン当たり 200 円から 500 円に改定された影響による。</p>
質問 10	<p>鉄スクラップの値上がりの理由として“海外相場の上昇”とあるが、具体的な状況は何か。また、一時的なものか、今後も続くものなのか、現時点での見通しはどうか。</p>	<p>東アジア地域の電炉メーカーの鉄スクラップ在庫が4カ月ぶり低水準となり、調達意欲を強めたことで相場が上昇した。海外相場の上昇は一時的である可能性もあるが、国内の鉄スクラップ発生量が低水準であることから、国内電炉メーカーと輸出業者の競合も予想される。先行きは強含みの見通しである。</p>
質問 11	<p>異形棒鋼の過去の値動きでは、鉄スクラップの価格動向に大きく左右されているように見える。異形棒鋼の先行きの見通しを弱基調と判断している中で、鉄スクラップの値動きとの関連をどのように想定しているのか。</p>	<p>異形棒鋼の製造コストは、副資材価格や電力料金など、鉄スクラップ価格以外の影響も大きくなっており、鉄スクラップと異形棒鋼の価格動向の関連性はかつてより弱まってきている。しかし、鉄スクラップは主原料であり、鉄スクラップ価格と異形棒鋼の価格差が大きいことが、需要家の買い控えや値引き要求に繋がるなど、鉄スクラップ価格と異形棒鋼価格の関連性は依然として強い。今月は鉄スクラップが値上がりしているが、鉄スクラップと異形棒鋼の価格差が依然と大きいいため、異形棒鋼の見通しを弱基調としている。</p>
質問 12	<p>橋梁塗装工・構造物取壊し工の下落要因として「燃料油（軽油）の値下がりを受け、下落」とあるが、主要10都市の今月の燃料油価格には上昇傾向がみられる。橋梁塗装工・構造物取壊し工で値下がりした地区では燃料油が値下がりしていて、またそれが下落の主要因であるのか。</p>	<p>橋梁塗装工、構造物取壊し工他は季刊誌であり四半期ごとに調査している。燃料油の価格においても四半期単位の変動が反映されるため、当月調査結果と異なる動きとなる場合がある。今回下落の地区は四半期の燃料油変動の累計額が下落となっている地区である。</p>

質問 13	鉄スクラップ価格は益明け以降の下落から、値を戻しているとのことだが、その理由は何か。	海外相場の上昇と国内の鉄スクラップ発生量が低水準であることが主要因である。東アジアを中心に海外相場が上伸に転じ、輸出価格も上昇となった。国内電炉メーカーは夏期減産期ながら、購入価格を引き上げている。
審議結果	「建設物価」10月号、「Web 建設物価」10月号、「土木コスト情報」秋号、「建築コスト情報」秋号の価格動向に問題はなかった。	

以 上